

## 日高海域に大量出現したオオズワイガニについて

### ○はじめに

2023年の1月に、日高中央漁業協同組合から「様似町の沖合に設置したスケトウダラ漁の刺し網に大量のオオズワイガニがかかり網から外すのに苦労しており、漁具も破損している。」との連絡があり、オオズワイガニの生態等の情報提供と、漁獲物の調査要望を受けました。そこで、過去のオオズワイガニの漁獲状況や調査の記録を調べるとともに、様似町沖合で漁獲されているカニの大きさ等を調査しました。今回は、その結果を報告します。

### ○オオズワイガニとは

オオズワイガニはズワイガニ属の一種で、同属には高級ガニで知られるズワイガニやベニズワイガニがいます。分布は東部ベーリング海からアリューシャン列島、アラスカ湾から北米オレゴン沖、カムチャッカ半島西側に見られ、北海道周辺では北見沖や北海道太平洋沿岸にも生息しています。名前は、ズワイガニの仲間では大型になることに由来します。

### ○道南太平洋での漁獲記録と調査研究

例年、道南太平洋ではオオズワイガニが刺し網等で混獲されますが、漁獲量は少ないようです。今回のような大量漁獲については、1980年代半ばに噴火湾から苫小牧の沿岸域で、本種が数千トン漁獲されたとの記録が残っています。この大量漁獲をもたらした群れは、1985年の春に甲幅30~50mmの稚ガニとして大量に出現し、かれい刺し網にかかり邪魔者として扱われました。しかし、翌1986年には甲幅80mm以上に成長し、この年には2,300トン、1987年には1,400トンと大量に漁獲され、一部は関西方面へズワイガニの代用品として空輸されました。しかし、1988年以降は漁獲量が急減しました。残念ながら、この急増急減の原因については現在もよくわかっていません。この大量出現当時に、函館水産試験場が地元の支庁（現、総合振興局）や水産技術普及指導所の協力を得ながら調査を実施し、この海域に分布するオオズワイガニの生態について以下のことが報告されています。

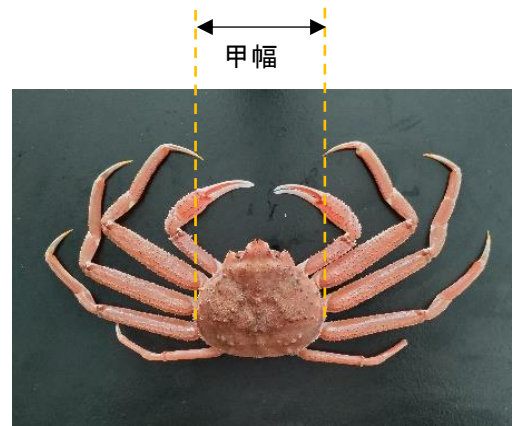


図1 様似沖で漁獲されたオオズワイガニ体の大きさは「甲幅」で示される

【成熟】雄が成体に達する最小の甲幅は75mm、50%以上が成体となる甲幅は113mm、雌ではそれぞれ70mm、84mm。

【産卵期】初回産卵の雌では、8~9月と1~5月の2期があり、2回目以降は1~5月。ふ化期は1~5月。抱卵数は、甲幅86~121mmの雌で8万~33万粒。

【成長】ふ化後満1年で甲幅33mm（雌雄）、2年で甲幅71mm（雌雄）、3年で甲幅116mm（雄）、101mm（雌）。当海域のオオズワイガニは成長が早く、成体になるまでに要する期間は北部アラスカ湾のオオズワイガニの約1/2、日本海ズワイガニの約1/4。高成長の要因は高水温の影響と推察。

### ○日高海域で漁獲されたオオズワイガニ

2023年の1月に、日高海域の様似沖でカニかごに入網したオオズワイガニの測定を行いました。

た(図1)。本種はズワイガニによく似ているのですが、両者は口の形で簡単に見分けがつきます(図2)。今回の測定したカニを確認したところ、すべてオオズワイガニでした。測定の結果、平均甲幅は86mmで、最小は76mm、最大は107mmでした(図3)。過去の調査結果に照らし合わせると、年齢は主に2歳(2021年生まれ)と思われます。また、小型のカニが見られないことから、単年度に突発的に発生した資源と考えられます。

その後、6月に同じ様似地区で漁獲されたカニの大きさと体重を測り、1月の結果と比較しました(表1)。その結果、8~10cm台のすべての甲幅サイズで6月の体重の方が重くなっていました。地元の漁業関係者への聞き取りでも、「春先よりも(中身の詰まった)良いカニになっている」との評価でした。

今回のオオズワイガニの大量漁獲は、主に日高海域の東部(浦河~えりも)で見られており、1980年代(噴火湾~苫小牧)とは場所が異なります。一方、今年は噴火湾でもオオズワイガニが例年よりも多く漁獲されているということですので、分布範囲が日高海域にも広がったことになるのでしょうか。

#### ○おわりに

連日テレビ等で報道されているように、現在日高海域で漁獲されているオオズワイガニは、他のカニ類に比べ安値で取引されているようです。理由は、サイズが小さいことに加えて、これまでほとんど漁獲されてこなかったために、流通経路がなく、売り先がなかなか決まらないということがあります。現在、地元の漁業関係者が販路の開拓に向け努力を続けています。幸い、道南太平洋のオオズワイガニは成長が良いという調査結果がありますので、来年以降ぐっと大きくなって商品価値があがることも期待されます。水産試験場としても、この資源が有効活用されるように、引き続き地元の漁業関係者や、行政、水産技術普及指導所と協力して、オオズワイガニの分布状況や成長等を調査していく予定です。

#### ○参考文献

渡辺安廣. ズワイガニ. 「漁業生物図鑑 新北のさかなたち(上田吉幸、前田圭司、嶋田宏、鷹見達也編、水島敏博、鳥澤雅監修)」北海道新聞社、札幌、2003:390-393.

渡辺安廣(1992)道南太平洋海域におけるオオズワイガニの成熟と産卵、北水試研報、39、21-34.

渡辺安廣ら(1999)道南太平洋海域におけるオオズワイガニの成長、北水試研報、55、173-183.

(2023年6月16日 北海道立総合研究機構 栽培水産試験場調査研究部 渡野邊雅道)

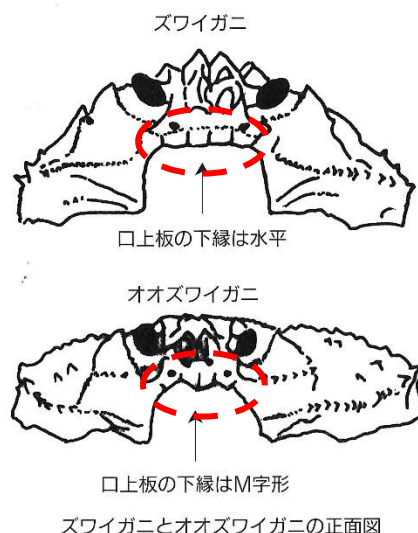


図2 ズワイガニとオオズワイガニの見分け方  
「新 北のさかなたち」より抜粋

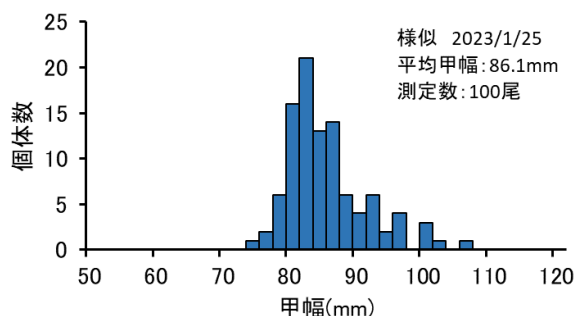


図3 様似沖で漁獲されたオオズワイガニの甲幅組成(2023年1月)

表1 甲幅階級別平均体重(オス)

平均体重	8cm台	9cm台	10cm台
1月25日*1	165g	233g	277g
6月8日*2	210g	275g	341g

\*1: 冷凍サンプル \*2: 生鮮サンプル